

# 積極保健保育

## 幼児體練のために

感應幼稚園 青柳美智代

子供を丈夫に育て度い、全園児をひとり残らず本當に健康な子供に育て度い、この願ひは幼稚園日々の保育の上に掲げてある強い願ひであるが、世の母親にとつても切なる願ひであり、更に戦時下の國家も愈々強烈に要望しつゝあるところである。實に民族の興亡はそのひとり／＼の健康が基礎であり、健民強兵が國家民族の興亡を決する重大なる要素となつたのである。

幼稚園は幼児期の教育機關である。幼児の教育を國家から委任されてゐるのである。その重責を自覺し、肝に銘じて幼児の身心の鍊成に盡瘁して、長じては健民となり、強兵となつて眞にお國のために役立つもの、育成に粒々として力を注ぐべきであると信ずる。

幼稚園の健康教育は從來、養護と體練の二方面に分れてゐる。養護は子供を主として保護愛育する方面であつて、一般に衛生保健の訓練として實行されてゐるもの、例へば洗手、含嗽、榮養劑

給與、給食等すべてこの養護の項目に含まれるものと思ふ。即ち主として病氣にならず安らかに生長するやうに、その健康を日々持續することが出来るやうにと、ひたすら子供の身體を保護愛育する方面であつて健康教育としては守勢的、消極的態度と思ふ。

この養護方面に對して體練は身體を鍛へることに依つて强健な身體を順々として育てあげて行く、更に身體各部の持つ力、即ち體力を充分發達鍊成して行かうとする方面である、養護の身體を保護する立場から一步進んで病氣をしない様な立派な身體に育てること、疲れを知らないやうな強靱な體力の持主に育てることが主眼であると思ふ。つまり養護の守勢的消極的方面に對し對蹠的立場であつて、積極的、攻勢的方面であると思ふ。勿論、養護と體練は健康教育の二方面ではあるが、その實行に當つては不可分であつて、養護し、體練し、體練も養護を考へて指導する必要のあることは云ふまでもない。

而て幼稚園の健康教育の現状を省るに、養護に主點をおくことは、幼稚園が幼兒期の教育である以上當然であるが、餘りに養護だけに片寄り過ぎてゐる遺憾がないだらうかと思ふ。養護だけが健康教育のやうに見られてゐないだらうかと思ふものである。養護の守勢的、消極的な方面にのみ、力を注ぎ子供の身體を守る面だけに汲々として、積極的な體鍊方面を疎んずることは内省、戒心の必要があると思ふ。たゞ健康であり、病氣をさせないと思ふだけならば温室育ちの花のやうに悪い條件を一切排除して大事に大事に冷い風にも當てないで育てさへすれば良いことになる、然しこれでは病氣をしないと云ふだけで眞の健康とは云はれないのである。眞の健康とは寒暑風雪を凌ぎながらすく／＼と伸びて行く野外の立木のやうな健康でなければ眞の健康とは云ひ得ないのである。そして身體各部分の能力が年齢に應じて充分發達したものであることも必要である、幼稚園の健康教育は、年齢的に幼い時代の教育とは云ひながら、温室育ちの花のやうな、消極的健康教育にのみに終始したものであつてはならないと思ふ。宜しく幼兒の身心に適應するところの體鍊を實施して眞の健康體を育成するやう一段の努力の必要を痛感する次第である。

而て幼稚園の體鍊の教育を阻むものに二つの問題がある。その一つは體鍊は幼兒期からでは行過ぎであると云ふ立場である。この考へ方は幼兒教育を何か特殊な教育のやうに思考した嘗つての考へ方から出發してゐる意見のやうに思はれるのである。云ふまでもないが幼兒教育もやはり皇國民鍊成の中に含まれてゐる一環の教育であつて、特殊特別な教育をする筈はないのである。就て

は皇民道德を培育し、健民強兵のための教育を實施する點では毫も變りはない、また變りがあつてはならないと思ふ。たゞ其の方法や過程、程度などの上からは、年齢に適應して考慮されること、最も効果的であつて、幼兒教育の他の教育との差異點は其處だけにあると思ふ。従つて體鍊の教育は、幼兒期から決して行過ぎでもなく、無理がありよう筈はない。まして幼稚園の集團教育に於ては體鍊を統一的に指導する必要を感じる。本園に於て指導した體鍊に依れば、少しの無理もない、子供は自ら進んで體鍊を樂しむ態度を強く持つてゐることを知り、子供の心に満足と與へる結果にもなり、いさゝかも危む必要がないのである。まして組織的に指導することに依つて體力の進歩上昇を測定表の上を知ることを得、更に潑刺とした活動的な健康狀態に愈々體鍊指導の自信を強めてゐる次第である。

次に體鍊實施を阻むものに保姆の體鍊指導能力の問題がある。從來の保姆の教養の中には體鍊方面は實に缺けてゐることである。そのために體鍊方面の是非共再教育の必要を痛感してゐる次第である。先般も東京市國民學校の教員團約一千名が分列行進、分隊教練、各個教練を實に堂々と演練する場面を目の當り參觀して國民學校の傾向と現状を今更のやうに強く感じさせられた次第である。勿論幼稚園と國民學校は年齢に差があり、従つて體鍊の方法、手段には差異の必要があることは當然と思ふが然し幼稚園保姆の體鍊方面の教養の缺除は何人としても内省を要する問題と思ふ。嘗つてある機會に保姆諸君の公式集團行進に従つたことがあつたが、急に集められた場合に足並みを揃へることは無理であ

るにしても、團體行進の場合は指揮者の號令に従つて、足並みを揃へる氣構へが必要であると思ふ、縦横の間隔を整へる氣持ち位は當然あるべき筈であると思ふが、半數位は案外呑氣に散歩でもする氣持で歩いてゐて、どうしても行進にならなかつたことを覺えてゐる。嘗つて幼稚園の先生は夫れでもよかつたのであつた、長い袖、長い袴で、靜々と保育に従事することが、母性的でよい先生として讀へられた時代もあつたのである。ところが其のお手本である母性的の母性が、既に隣組防空陣の一員としてあの輕快な服裝、見事な團體訓練を受けて號令一下勇敢にして、活潑な行動をとつてゐる時代となつてしまつたのである。従つて、幼稚園保姆も昔のまゝの氣持で保育に携り、自身に氣をつけ、竝、行進一つ正しく實行出來ないとなれば時代錯誤も甚しいと云はなければならぬ。

## 健康増進の爲の保育の實際

大阪第一師範學校女子部附屬幼稚園

清水桔梗

決戦下健康増進の保育は、保育中の王座とも申すべき事柄で、日々多少とも健康増進の保育でないものはございせん。しかも亦健康増進の保育程、平凡で長期間を要するものも少いでせう。

扱て、我が附屬幼稚園で採つて居ります保育も亦、平凡の域を脱しませんが、長期を狙つて實施致して居りますので、やがては相當の効果を期待することが出來ると信じて居ります。

ればならぬ。然し残念なことに、幼稚園の現状、その方面に対する保姆の教養不足のために進歩の遅々を認めない譯に行かないやうである。氣をつけた幾回繰返しても子供に徹底させられないものなどを見ると殊に其の感を深くする。それは單に聲の強弱大小から来る結果や、單なる技術ではなく、先生が體鍊されてゐないからであるやうだ、即ち號令者に氣をつけが身に著いてゐないためである。號令は小さくとも號令の精神が身に著いてゐて、先づ自身の態度にその號令の精神が嚴正に表現されてゐるならば容易に子供に徹底させることが出來子供を指揮することが出來ると思ふ。幼稚園の體練實施に當り、具體的な順序、方法、過程を研究する前に、先づ保姆諸君の體練の教育の必要を痛切に感じ、またそれが先決問題であることを述べて筆をおくものである。

先づ幼兒の健康生活を、家庭と幼稚園の兩方面から、盛り上げてゆかねばならないと存じ、毎月、朝日に幼兒相談會を開催して、家庭と緊密な具體的な連絡をとり、尙理論的連絡として、毎月一回大詔奉戴日に「あゆみ」といふ家庭との連絡機關紙を發行、姿勢、睡眠、食事、間食、疾病其他家庭で配慮していただかねばならない、健康増進の事柄について指導をし、より效を擧げ様と努